

九州7県の観光素材を、優れた視点で紹介した新聞・雑誌・テレビ番組を表彰！

## 「第2回 九州魅力発掘大賞」発表

JR九州では、主に九州外の大都市圏を中心に、九州7県の観光素材を優れた視点で紹介した新聞、雑誌、テレビ番組等の媒体を「九州魅力発掘大賞」として表彰しておりますが、この度2016年中に取り上げられた記事、番組を対象とした「第2回 九州魅力発掘大賞」が決定しました。

### 1 実施主体

主催：九州旅客鉄道株式会社

協賛：福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、

日本航空株式会社、全日本空輸株式会社、株式会社 JTB 九州

後援：国土交通省九州運輸局



### 2 審査方法

2016年中に、主に九州外の大都市圏（東京・名古屋・大阪）で九州7県の観光を取り上げた記事やTV番組等の中から、「①露出量、②コンセプト、③話題性、④実際の来訪意欲喚起」を基準に審査委員が審査を行い、表彰媒体を選定しました。

### 3 受賞媒体（受賞媒体概要と推薦コメントは「別紙」をご参照ください。）

賞		受賞媒体
九州魅力発掘大賞		NHK総合 「ブラタモリ（熊本城／水の国・熊本）」（3月19日、4月2日放送）
部門賞	雑誌部門	婦人画報12月号「プレミアム秘湯」（11月1日発行）
	新聞部門	日本経済新聞「NIKKEIプラス1 とっておき温泉（3回）」 （7月23日、9月17日、11月12日 3回発行）
	映像部門	BSジャパン 『日経プラス10 特別編』（8月14日放送） 九州に生きる“ニッポンブランド”-ななつ星 in 九州 震災に克つ-
特別賞		映画「うつくしいひと」

4 選考媒体数 137点（雑誌80点、新聞15点、映像42点）

### 5 その他

「九州魅力発掘大賞」は、前身の「南九州PR大賞」より数えて10回目を迎えました。

【参考】第2回 九州魅力発掘大賞 審査委員名簿

役 職	所属及び役職	氏 名
委員長	九州旅客鉄道株式会社 代表取締役社長	あおやぎ としひこ 青柳 俊彦
副委員長	九州運輸局 観光部長	いぢち ひでき 伊地知 英己
委 員	福岡県産業デザイン協議会 副会長	いしむら かずえ 石村 一枝
委 員	大分県 企画振興部 観光・地域局長	おかもと てつお 岡本 天津男
委 員	九州市民大学 常任理事	かんざき くにこ 神崎 邦子
委 員	エッセイスト	さいとう ゆか 斎藤 由香
委 員	ジャーナリスト	しまだ はじめ 島田 始
委 員	佐賀県 文化・スポーツ交流局長	しらい まこと 白井 誠
委 員	福岡県 商工部 観光局長	たかはら みのる 高原 稔
委 員	日本旅行作家協会会員	たに ひろし 谷 浩志
委 員	日本ガス株式会社 代表取締役社長	つまがり さだとし 津曲 貞利
委 員	鹿児島県 PR・観光戦略部長	にし けいいちろう 西 啓一郎
委 員	熊本県 商工観光労働部 観光経済交流局長	はらやま あきひろ 原山 明博
委 員	宮崎県 商工観光労働部 観光経済交流局長	ふくしま きよみ 福岡 清美
委 員	株式会社JTB九州 代表取締役社長	ふるた かずよし 古田 和吉
委 員	長崎県 文化観光国際部長	まつかわ ひさかず 松川 久和
委 員	日本航空株式会社 九州・山口地区支配人	みぞのうえ まさみつ 溝之上 正充
委 員	株式会社ドーンデザイン研究所 代表取締役	みとおか えいじ 水戸岡 鋭治
委 員	全日本空輸株式会社 執行役員 九州支社長	みやがわ じゅんいちろう 宮川 純一郎
委 員	九州観光推進機構 事業本部長	わたなべ ふとし 渡邊 太志

【敬称略、委員は50音順で記載】

## 「第2回 九州魅力発掘大賞」受賞媒体と推薦コメント

## ■ 九州魅力発掘大賞

媒体名	NHK総合		
タイトル	「ブラタモリ（熊本城／水の国・熊本）」		
放送日	2016年3月19日、4月2日放送	対象エリア	熊本
(推薦コメント抜粋)			
<ul style="list-style-type: none"> <li>熊本城や城下町の“やりすぎなすごさ”を知ることができ、難攻不落のこの城から九州をもっと元気になりたいと思わせる内容である。</li> <li>震災直前のロケという事だが、まさに「水の国」である熊本の地層、そして同地の象徴である「城」をタモリという名案内役を得て知的に興味深くできた作品である。</li> <li>地震前の熊本城の雄姿を独自の視点で取り上げており、史料価値も高い。</li> <li>地元の方でもあまり知らないようなことを興味深く、かつ、面白おかしく紹介している。特に熊本城は被災前の貴重な映像となった。</li> <li>単純に観光で訪れるだけでは知ることのできないマニアックな内容に重点を置き、それを深く掘り下げ、その時代の状況を体験できることに面白さと話題性、そして、来訪意欲を掻き立てられた。</li> <li>熊本城というだれもが知る観光地をタモリが訪れるということでもまず興味を引いている。熊本城を攻め入る敵の視点から進んでいくというつくりも面白い。一度訪れたことがある人にも改めて訪れ「やりすぎ」を見てみたいと思わせるようにできている。歴史好きな人にはもちろん、そうでない人にも小さな子供にも熊本城の魅力が十分に伝わり、楽しめる作品である。また震災により崩れてしまった細かな部分がたくさん映像に残っておりその歴史を知るのに貴重なものである。</li> <li>これを見た人は誰もが熊本城を訪れたいくなるに違いない内容。加藤清正が築いた熊本城及び城下町に関するトリビアが面白い。</li> <li>「熊本城」「水の国・熊本」テーマも極めてユニークで掘り下げ方が半端ない。町の興り、成り立ちを歴史的、地質的に楽しく解明し、飽きさせない作りはさすがである。</li> <li>震災直前の美しい熊本城をタモリらしい切り口で紹介。加藤清正のやりすぎ城、心配性の防衛マニアなどわかりやすく新鮮。一日も早い熊本城の修復を願う。</li> <li>新しい視点から観光、町の魅力をとらえた番組。見終わるとその街に行ってみたくなる不思議な力のある内容。熊本城、熊本の街が輝いてみえる。</li> <li>震災前の熊本城の姿を映した貴重な映像資料。タモリさんのコメントも冴え渡っており娯楽と教養、両方の要素を兼ね備えたクオリティの高い番組。</li> </ul>			

■ 部門賞（雑誌部門）

媒体名	婦人画報 12月号		
タイトル	「プレミアム秘湯」		
発行日	2016年11月1日発行	対象エリア	熊本
<p>（推薦コメント抜粋）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 温泉を切り口に復興にかける熊本の強さを垣間見ることのできる作品である。</li> <li>・ 熊本地震で被災した地域が復興に向けて歩みを進めている様子が紹介され、施設の情報だけではなく、現地で携わる人にもスポットをあてており、地域の力が感じられる作品である。</li> <li>・ 行ってみたいと思わせるような秘湯が見事なアングルの写真で紹介されている。また、被災した地獄温泉もありのままに紹介されており、熊本地震からの復旧・復興に関心をもってもらえる内容である。</li> <li>・ 熊本地震で傷ついた熊本の秘湯が苦難を乗り越えて努力を重ね、見事に復活している姿に勇気付けられた。また贅沢な誌面構成と綺麗な写真は秀逸。松田丈志氏の誠実な姿も良い。</li> <li>・ 震災を乗り越えて復興に向かう阿蘇の温泉の前向きな姿が描かれ、応援かたがたお湯に浸かりに行きたい気分になる。</li> <li>・ 熊本地震の復興応援へのメッセージを婦人画報の美しい誌面で新たな切り口で企画。多くの人が九州を応援したい、訪れてあげたいという思いにつなげた。</li> </ul>			

■ 部門賞（新聞部門）

媒体名	日本経済新聞		
タイトル	「NIKKEIプラス1 とっておき温泉（3回）」		
掲載日	2016年7月23日、9月17日、11月12日 3回発行	対象エリア	佐賀、熊本、鹿児島
<p>（推薦コメント抜粋）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 九州の温泉をシリーズで簡潔な文章で書き下ろされ、魅力が伝わってくる。自然、風景、そして食事、もちろん「湯」の様子が生き生きと描かれて行きたくなる作品である。</li> <li>・ 九州の主力コンテンツである温泉を北部・中部・南部と地域のバランスよく取り上げている。</li> <li>・ 温泉、食にスポットを当て、旅行意欲の喚起につながっている。</li> <li>・ 九州以外の地域の方にとって湯布院・別府ほど知名度の高くない3地域の温泉の魅力を丁寧に紹介し、九州の「温泉アイランド」として層の厚さ・多様性を伝える内容となっている。</li> <li>・ 新聞という媒体の中で空間のとり方、ビジュアルの美しさがバランスよくより地域の認知が高くなる。</li> <li>・ 1回の記事に1箇所の温泉宿を複数のカラー写真も交え丁寧に紹介いただいております、宿泊先を選定する貴重な情報源になる。</li> <li>・ 「温泉、景色、食」のマッチングが綺麗。ちょっとした贅沢感があり、自分へのご褒美に訪れてみたい気になる。</li> <li>・ まず「とっておき」というタイトルが気に入った。知らない穴場や隠れ湯の温泉にはぜひ行ってみたいくなる。紹介記事もとても丁寧な取材で写真データも簡潔でわかりやすい。</li> <li>・ 日経の読者層にぴったりの九州ならではの美しい写真と文章でPRしている。</li> <li>・ 実際に訪問したくなるような魅力ある温泉が取り上げられている。</li> </ul>			

■ 部門賞（映像部門）

媒体名	BSジャパン		
タイトル	『日経プラス10 特別編』 九州に生きる“ニッポンブランド”-ななつ星 in 九州 震災に克つ-		
放送日	2016年8月14日放送	対象エリア	九州7県
<p>（推薦コメント抜粋）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ななつ星に関わる人々や日産自動車などにスポットを当て、地震に負けない九州の底力を伝える力強い作品である。</li> <li>・ 熊本地震の発生後、当初の放送内容に追加の取材を行い、震災からの復興とのメッセージを打ち出している。</li> <li>・ 水戸岡氏をはじめ「ななつ星」に関わる人々の熱い思いを通じて、九州各地の魅力を余すところなく紹介する内容である。</li> <li>・ 熊本地震の被害から再び立ち上がろうとする熊本とリンクしながら「ななつ星」の車中で豪華なゲストによって語られる「日本のブランド力」の話は熊本のみならず日本を元気づける素晴らしい番組に仕上がっている。</li> <li>・ 震災後1年が経過した今年は、これが筆頭だと思う。JR九州だけでなく、被災地の住民や地元企業にもスポットが当てられ、復興に向けて努力する姿や、故郷への郷愁などが細やかにカバーされている上で九州人の温かさと強さがよく伝わる内容に感銘を受けた。</li> <li>・ 復興に願いをのせて、さらに日本のブランド力を考えさせる番組。成熟した旅を実感させる。</li> <li>・ 単なる「ななつ星」のPRや震災復興というテーマを超えた日本文化や日本人の生き方に対する示唆に富んだ内容。</li> </ul>			

■ 特別賞

受賞名	映画「うつくしいひと」
<p>（選定理由）</p> <p>・「うつくしいひと」は熊本県出身の行定勲監督による、熊本にゆかりのある俳優や著名人が出演するノスタルジックなラブストーリー。監督、出演者、熊本県内の市町村や地域活性に取り組む人たちが「地方創生版チーム熊本」として連携し「熊本生活のすばらしさ」を伝える目的で作品を作った。主人公たちの日常生活と、作中随所に映し出される雄大で美しい熊本のコントラストが印象的な作品となっている。</p> <p>この作品の完成後に熊本地震が起き、結果として貴重な震災前の「うつくしい」熊本を伝える作品になった。熊本の美しさや魅力を広く伝えることができる作品として特別賞に選定した。</p>	

